

(様式第 4 号)

上田市美術館協議会 会議概要

1 審 議 会 名	上田市美術館協議会
2 日 時	令和 8 年 3 月 18 日 (水) 午後 2 時 00 分から午後 4 時 20 分まで
3 会 場	上田市立美術館 多目的ルーム
4 出 席 者	小林幸雄会長、米津福祐職務代理者、長田泰明委員、笠原美智子委員、佐藤聡史委員、武田敦子委員、伴美佐子委員 (五十音順)
5 市側出席者	荻原交流文化芸術センター館長 山寄美術館長、岡田学芸展示係長、信藤教育普及係長、竹下主査、清水主査、山極主任、大塚主任、吉川美術教育指導員 (合同会議) 堀内副館長、中村副館長補佐、小泉舞台技術係長、田澤事業係長、馬場総務係長
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	1 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	令和 8 年 3 月 31 日

協 議 事 項 等

令和 7 年度 第 3 回上田市立美術館 美術館協議会

美術館協議会の委員 1 名 (山崎委員) が所用により欠席との報告あり

1 開会 (小林会長)

- ・ 資料確認

2 会議事項

(1) 上田市立美術館運営方針の改定について

【説明】

(事務局) 資料に沿い運営方針改定について概要を説明【資料 1、2】

- ・ 資料 1 : 事務局最終案

令和 7 年度 第 2 回美術館協議会にて出された意見と、委員、事務局から出された意見とを集約して修正したもの。

- ・ 資料 2 : 完成版

行間やページ割等を調整し、整えたもの。

【協議】

(会長) 資料 1 の 3 章「上田市立美術館の運営方針」の太字になっている部分は、大事な箇所ということで強調という認識でよいか。

(事務局) 「みる×つくる×あそぶ×まなぶ」は、今回の運営方針から新たに掲載するキーワードであり、色々な要素を掛け合わせながら新たな価値が生まれる場を目指していきたいという美術館の姿勢を表す部分として強調している。また、特に 3 章の新たな運営方針は、大きな変更箇所となっていることから強調する表現となっている。

(委員) 「広報」については、どこに位置付けているのか？事業や美術館自体を知ってもらうため、例えば長野県立美術館では広報は大事な一つの柱として位置付けている。広報という言葉が、どこかに必要なのではないかと考えるが、どうか。

(事務局) 「広報」について、運営方針の中では、特段表現としては記載していない。4 章 事業区分 (3) 教育普及事業のイの中で少し触れている。広報は、それぞれの事業で必要な要素なので、個別に外出しすることはしていない。個別事業として明記した場合、より事務的な側面を出すことになるので、

表現としては盛り込んでいない。

(委員) 専門的な人材(確保)というところにつながる話になるが、90年代初頭は、展覧会担当学芸員がチラシ・ポスターを制作するところまで行っていたが、展覧会準備の忙しい時期にそこまで担うのはとても難しく、90年代後半頃から専門的な広報担当者を置く美術館が多くある。

例えば、長野県立美術館では広報担当が4人いる。県立美術館ほどの規模であれば2~4人くらいが事業に当たるのが一般的である。運営方針の文言を変える必要はないが、7章に、専門の人材確保の必要性として広報の担当者も念頭に置いた方がよいのではないかと考える。

また、専門の人材について、作品の収集や管理、展覧会の企画などと、教育普及を扱う、いわゆるエデュケーターとでは、全く専門性が異なる。それぞれの専門性を前提として雇うべきと考える。例えばずっとエデュケーターとして学んできた人に、突然、展覧会の企画や、作品の収集、保存科学を担当させるのは現実的ではない。こちらも文言は変更しなくてもよいが、実務的なこととして念頭に置いて運営にあたってもらいたい。

(事務局) 望ましい姿として、委員のご指摘のとおりだと考えている。上田市の昨今の人材不足や、財政状況との兼ね合いから、このような現状となっている。また、上田市規模の自治体が運営する博物館・美術館として、どれだけの人件費を充てられるのかということと絡み合ってくる。当館としては、機能を果たせるように人材の確保や育成に努めていくが、美術館の課題として認識している。なお、広報に関して言えば、担当者はいないというわけではない。

(会長) 佐藤委員は、丸山晚霞記念館を一人で担っている立場としてどうか。

(佐藤委員、丸山晚霞記念館の状況を説明)

(委員) 館の規模によっては、全てマルチに担わなければいけない場合もあり、仕方ない部分がある。マルチに出来る人材を育てろということではないが、(丸山晚霞記念館では)学芸兼館長として、年数を重ねることで、専門性は高くないものの広く知識を身に付けて対応している。東御市の規模では、専門によって人を分けるのは難しいところがある。

(会長) 資料1と資料2との違いについても説明をしてもらいたい。

(事務局) 内容に違いはなく、見やすさと製本することを考慮してページ配分や余白など体裁を整えている。

(委員) 「運営方針」について、15万人いる市民のうちどこまで届くか、ということを考えると、個人的な希望として、基本理念の部分を、わかりやすい1枚のポスター・チラシなどの形にするとよいのではないかなと思う。常に市民の皆様の目に触れるようなところに置き、理解を深めていくことも必要なのではないか。このような方針で運営している、ということを多くの市民に知っていただけるとよいと感じる。

(事務局) ホームページには掲載の予定。配布もご意見を踏まえて検討する。

(会長) 先の広報の話にもつながるが、紙媒体で配ることで、より美術館のことを理解してもらうことにつながる。他の宣伝物の裏面を利用するなどよいのではないかな。

(委員) 展覧会のパンフレット、ポスターに文言だけでもいいので、一行入れるとよいと思う。

3 その他

(事務局) 運営方針の今後の進め方の予定について。改定案をもって定例教育委員会で説明したのち、4月の部長会議で報告し正案となる。6月定例議会で議題外として、産業水道委員会で報告するながれとなる。

(会長) 定例教育委員会や部長会議で意見があった場合、また内容が変更になることはあるか。

(事務局) 変更があった場合は、再度協議会を開く場合もある。教育委員会の委員さんからも関心を持っていただいているので、色々なご意見が出る可能性はある。

(会長) 議会はいつ頃か。

(事務局) 6月中旬以降の予定であるが、事業は4月から開始となるので、この方針に沿って進めていく。

(会長) 協議事項は以上となる。

(事務局) 一点報告事項あり。教育普及と子どもアトリエ事業とをあわせて再編したパンフレットを制作中のためご覧いただきたい。(見本を回覧)

(委員) 全国美術会議の総会について。6月4日・5日に開催される。長野県で総会が開催されるのはほぼ初めてのこととなり、全国から300人ほどの美術館関係者が集まる。5日のエクスカーションでは、長野市・上田市・小布施町と視察を行う予定であり、その中で教育普及の活動について、アピールなどが出来ればよいのではないかと。

(委員) 中規模改修について、サントミュージーゼは平成26年からの開館だが、建物に傷みはあるのか？

(事務局) 代表的なもので、雨漏りの発生がある。昨年から状況が悪化したため緊急で修繕も行った。当初、開館から15年から20年ほどで大規模修繕を予定していたが、それを待ってられない状況になっており、中規模改修を実施することとなった。

(委員) 開館から12年、15年と、これからも大きな美術展なども企画されることと思う。今後の企画展についても期待をしている。

(会長) 運営方針は、4月からの運用ということで進めていただき、私や委員の皆さんも協力やサポートをしていきたいと思う。

4 閉会 (小林会長)

(事務局) 午後3時から上田市交流文化芸術センター運営協議会との合同会議を開催予定。

(会長) 以上で第3回上田市美術館協議会を終了します。

交流文化芸術センター運営協議会・美術館協議会合同会議

1 開会 (堀内副館長)

美術館協議会の委員1名が所要により欠席との報告あり

2 あいさつ (荻原交流文化芸術センター館長)

3 報告事項

(1) 上田市交流文化芸術センター第3期運営管理計画について、資料に沿い概要を説明 (事務局)

(2) 上田市立美術館運営方針について、資料に沿い概要を説明 (事務局)

- ・上田市立美術館運営方針について、連携事業に関する記載内容について協議

(3) 共通事項として、令和8年度事業について、資料に沿い説明 (事務局)

- ・交流文化芸術センター事業 (音楽事業及び公演事業) について説明

- ・市立美術館事業について説明

(美術館委員) 上田には海外で活躍した人も沢山いるし、所蔵作品を深く理解するためにも学芸員の海外研修は必要だと考える。市の予算での実施が困難であることは理解できるので、各種助成金等を活用し、積極的に海外に行くような職場環境にしてほしい。今後の人材育成の面では、こうした

研修の機会についても検討してもらいたい。

(事務局) 海外での研修は様々なハードルがあるが、ご意見を踏まえて検討する。

(センター委員) 公演事業について、毎年招聘している講師（アーティスト）の選定理由はあるか。

(事務局) 講師は主にレジデントアーティストに依頼している。(公演事業ではレジデント事業と表現している) 複数年にわたる事業展開や地域との関係性を踏まえ、毎年度継続して講師を依頼している状況がある。アーティストにおいても、上田の魅力に共感してお越しいただいている面もある。

(センター委員) アーティストが継続して事業に関わることは良いことだと考えるが、一方で、他のアーティスト（若く才能あふれる方）との出会いの機会の提供という点も意識して事業に取り組んでももらいたい。

(事務局) そういったアーティストが上田を訪れる機会も作っていききたい。

4 その他

・管理計画や運営方針についてお気づきの点などあれば、事務局までご連絡いただきたい。

5 あいさつ（小林文化スポーツ観光部長）

6 閉会（堀内副館長）